

今月のエキゾチック症例(第15回 2024年12月)

爬虫類の扁平上皮癌



図 1.フトアゴヒゲトカゲ, 眼瞼部腫瘍, 肉眼写真。左側上眼瞼部に直径1cm大の腫瘍が見られます(矢印)。本種において眼瞼はSCCの好発部位です。(写真提供:どうぶつクリニックNEXT様)

図 2. エボシカメレオン, 皮膚腫瘍, 組織写真, 低倍像。真皮において腫瘍性上皮細胞の胞巣状~島状増殖が見られます。腫瘍増殖巣中心部では、層状の角化物からなる癌真珠(*)が観察されます。

扁平上皮癌(SCC)は扁平上皮細胞由来の悪性腫瘍です。この腫瘍は哺乳類と同様に爬虫類においても一般的にみられる腫瘍で、特に爬虫類ではヘビ類やトカゲ類に好発します。好発部位は、フトアゴヒゲトカゲの眼瞼、ヘビ類の肛門、オオトカゲ類の頭部、他に口腔内や臭腺などです。

哺乳類ではSCCの原因として、紫外線暴露やパピローマウイルス感染などが知られています。爬虫類ではこれらの要因とSCCの関連性は明らかになっていませんが、ヘビのSCCからはパピローマウイルスが分離されたという報告があります。また、爬虫類においても複数の報告で紫外線照射とSCCの関連性が示唆されています。

一般的に、爬虫類のSCCは潰瘍を伴う局面~結節状病変(図1)を形成し、組織学的にはよく分化した扁平上皮細胞からなります(図2,3)。他の動物種と同様に転移は稀と考えられていますが、強い局所浸潤性を示すことがあり、外科的切除が難しい部位では難治性を示します。

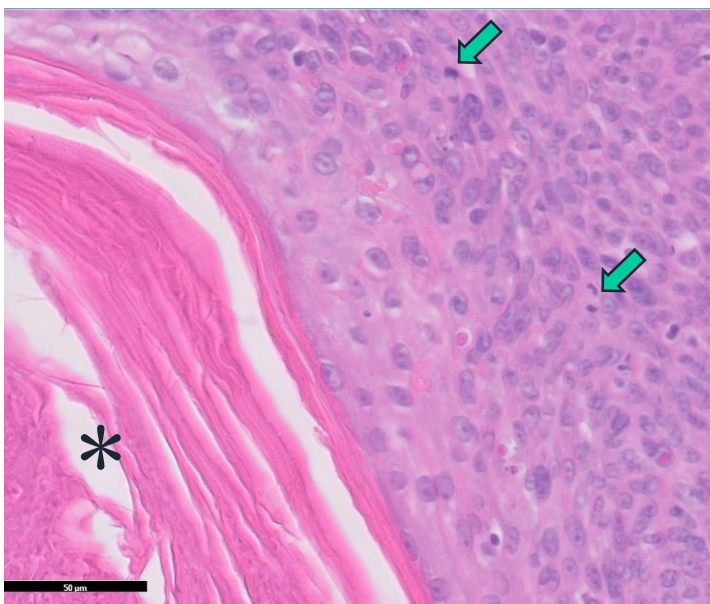


図 3. エボシカメレオン, 皮膚腫瘍, 組織写真, 高倍像。細胞分裂像(矢印)を伴う多角形上皮細胞の増殖が見られます。*は腫瘍増殖巣中心部の層状角化物を示します。

診断医からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

少し前までは爬虫類のペットと言えばフトアゴやレオパというイメージでしたが、最近では多種多様な爬虫類種の検体が送付されてくるようになりました。爬虫類は種によって解剖学的/生理学的特徴が大きく異なるため一括りにするのが難しく、日々情報集めに奔走しています。爬虫類/両生類の腫瘍分類や腫瘍と病原体との関連性などは、今後の研究に期待したいところです。

参考文献

1. Noninfectious diseases and pathology of reptiles. 2021. CBC Press.
2. Eleni C et al., J Comp Pathol. 2017;157(1):23-26.
3. Lovstad JN et al., Vet Pathol. 2019;56(6):630-635.



診断医: 平島 瑞希
DVM, PhD, DACVP,
DJCVF